

学外研修報告

令和4年度国立大学法人機器・分析センター協議会技術職員会議・シンポジウム・本会に参加して

共通機器部門 藤高 仁

1. はじめに(目的等)

国立大学法人機器・分析センター協議会は、参加機関に設置されている共通分析装置を管理する施設の教職員が、施設運用のために協議や情報交換を行う全国会議である。

2. 期間・場所

期間:令和4年10月21日

場所:愛媛大学 城北キャンパス 南加記念ホール

3. 参加者等

国立大学法人等学術機関で共通分析装置の施設及び装置の管理運用を支援する教職員

4. 研修内容

開催校主催による関連施設で業務を行う技術職員のために技術職員会議が開かれ所属センターの紹介と将来に向けて今後センターをどのようにしていきたいか等ポスターにて発表を行った。

その後講演、総合技術コンサルティング ジャパン・リサーチ・ラボ奥村 治樹様より「Innovation by Analysis (研究とは分析である) ～担当者から専門家(プロ)へ～」を聴講した。

午後よりシンポジウム「共用ガイドライン」とどう向き合うか? ～設備と人材を最大限に活かすために～」が開催され、基調講演「学術研究政策に係る最近の動向について」文部科学省研究振興局 大学研究基盤整備課 研究設備係長 村山 竜也様、招待講演「研究設備・機器の共用推進ガイドラインの活用について」山口大学理事、大学院技術経営研究科 上西 研教授、特別講演「設備マスタープランについて」文部科学省研究振興局 大学研究基盤整備課 課長補佐 山本 武史 様を聴講した。最後に総会が開かれ各委員会の活動報告が行われ閉会した。

5. まとめと感想

協議会に先立って開催された技術職員会議では参加機関の技術職員による施設の特徴と今後についてポスターにて発表を行い活発な意見交換が行われた。本学の分析機器共用の組織改編を行ったばかりなので記載内容には困らなかったが、今後のセンターのあり方についての問いに対しての回答を記載するにあたり関係技術職員(技術センター所属とN-BARD所属)に意見を伺う良い機会になった。概ね他機関の技術職員にも要点は伝えられたと考える。

協議会では、文部科学省研究振興局 大学研究基盤整備課・課長補佐 山本 武史 様 同課・研究設備係長 村山 竜也様より基調講演があり研究設備・機器の共用推進ガイドラインの活用と

文部科学省に関する政策に基づく予算要求についての説明を受けた。

招待講演「研究設備・機器の共用推進ガイドラインの活用について」山口大学理事、大学院技術経営研究科 上西 研教授によるご発表では技術組織の改編で部長を頂点とした組織に変更されたとの説明を受け少し羨ましく思った。その後総会にて機器・分析センター協議会の運用組織改革について説明と承認作業が行われた。総会終了後 2024 年度広島大学にて開催予定である機器・分析技術研究会の打ち合わせと、その後の開催地について関係技術職員と意見交換をおこなった。今後益々分析装置にまつわる新規事業が打ち出される中で技術職員の活躍が各機関において重要となってくると感じた。